

国際人としての見識を深める修学旅行

- 3年総合的な学習の時間「よりよい生き方を学ぶ」の中に位置づけて -

愛知県岡崎市立城北中学校

三 浦 潤 一

1. はじめに

岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置し、人口約35万人、本年から中核都市となり、文字通り西三河の中心となっている。

徳川家康の生誕地として有名な岡崎城や松平家の菩提寺である大樹寺を始め、歴史的文化遺産も多く、古くから東海道の要所として栄えてきた。

本校は、岡崎城を南に望み、市西部の矢作川、南部の菅生川の2大河川に囲まれ、岡崎市の中でもほぼ中央部に位置している。今年で開校42年目を迎え、学級数15、生徒数494人の中規模校である。学区は、高層ビルのデパート、ショッピングセンターが建ち並び、外部からの人の流れも多い。商業を営む人が多く、大小の工場も点在している。

昭和36年、職員28名、生徒954名で、市内13番目の中学校として創立され、連尺小学校と竜海中学校を仮校舎として開校した。校訓「真面目・精一杯」の生徒を育てるため、私たちは、生徒に要求する課題は、そのまま教師自らの課題として考え、実践していくことを基本的な姿勢としてきた。

また、創造的で特色ある学校・生徒会行事（暁天かけ足、学級歌発表会、資源回収、ねずみグループ・河川美化奉仕活動、長寿者訪問、城北科学の日など）への生徒の真剣な取り組みは、今日まで伝統的に受け継がれている。同時に、生徒の心にはたらきかける人的・物的な環境づくり（始業前の一分間不動、無人購買、立志の塔「誓いの言葉納入式」、地質園、水生植物園、ニュートンのリンゴ、メンデルのブドウ、大賀ハス、種子発見のイチョウ、コケ園、シダ園など）にも力を入れてきた。さらに、インターネットを始めとするマルチメディア教育を進んで取り入れ、平成11年度視聴覚教育文部大臣賞を受賞するなど先進的な取り組みも評価されている。

本校の遠足的行事は、1年「山の学習」（1泊2日）、2年「スキー学習」（2泊3日）、3年「修学旅行」（2泊3日）を実施している。



2. 平成15年度 修学旅行までの取り組み

平成14年度から完全実施された「総合的な学習の時間」を本校では、JMT（城北マルチタイム）と名付けて各学年がテーマを掲げ学習している。「総合的な学習の時間」を、1年生は、自分たちが暮らす身近な「環境」、2年生は、さまざまな社会環境の中で高齢者や障害者とともに生きるための「福祉」をメインテーマに学習している。

3年生では、1、2年生の学習を統合し、これからの社会の中で「よりよく生きる」をテーマとして、卒業後の進路選択に生きる力を育む学習を目指している。

以下は、3年生が、入学してから実践を行ってきた13年度1年生～本年度に至るまでの「総合的な学習の時間」の活動の実践事例である。

（1）平成13年度1年生の取り組み

1年生では、環境をテーマに取り組んでおり、特に、自分の生活を見直し地球環境のためにできることを見つけ、実行していこうとする心を育てたいと考えた。

実践の目標

環境について生徒が自分なりに課題をもって意欲的に学習を進めていくために、8講座を設けて生徒に自分の学習したいところを選択させ、学習を進めることにした。そして、次のことを目標にした。

- 1 自分の課題を見つけ、進んで取り組むことができる生徒
- 2 仲間と協力して、学習を進めることができる生徒
- 3 学習したことを、進んで表現できる生徒
- 4 学習したことを、生活の中で生かしていこうとする生徒

上記の目標を受けて、計画を立てた。

計画と方法

8講座の活動計画については、まず、生徒たちから「環境」についてのアンケート調査を行い、生徒たちの意識が、どこにあるのかを探った。また、今一番問題となっている地球温暖化のこと、地球規模の環境の悪化の現状はどのようになっているか、環境の悪化を身近な植物から調べられないか、リサイクルの現状はどのようになっているか、もっと資源を活用できないか、自分たちの住んでいる岡崎市の様子はどのようになっているかなどの点から、次のように設定した。

講座の観点

地球の温暖化とCO2について
原発と公害について
四つ葉のクローバーの秘密
資源の再利用
外国のリサイクルの様子
日本のリサイクルの様子
岡崎市の取り組みの様子
資源の大切さを訴える作品作り

次の表は、年間の計画表である。

第1学年JMT「総合的な学習の時間」年間活動計画

テーマ「環境」- 私たちにできる環境対策—

月	週	活 動 計 画	メディアの活用・備考
4	3	○ 環境をテーマにしたオリエンテーション（昨年度の活動紹介）	パソコン室の利用の き まり ・昨年度の活動内容
	4	○ 学級での「環境」をテーマにした話し合い	
5	2	○ 活動内容と計画立案とそれぞれの活動	・班分け ・活動計画書 ・自然観察用紙
	3	地球規模で環境を考 えよう	
6	4	オゾン層を破壊について調べてみ よう CO2 による地球の温暖化について 調べてみよう	・記録用紙 デジタルカメラ
	1	資源を考えよう	
	2	衣食住の「住」を中心に考えよう（班から学年へ活動を 広げて行うことができる）	
	3	外国の進んだ取り組みを調べてみよう	
	4	廃物を利用して作品を作り、周りに飾ってみよう	
	5	日本や世界の現状を 調べよう	
	6	公害や原発について調べてみよう リサイクルの現状を調べよう	
	7	山の学習自然観察準備	
	8	山の学習自然観察（自然の大切さ） （例）・「伊賀川の取り組み」から川の清掃への協力 ・「EM 菌の利用」から花を作って長寿者訪問で花を贈る準備 ・ねずみグループでの活動	
	9	「自分たちにできること」講師を招いて講話を聞く	
7	1	講話を聞いて、夏休みの活動の計画を立てる	・外部講師による講話
8	2	○ 個人追求学習	・自由研究
9	2	○ （例）長寿者訪問の花の準備	・記録用紙
	3	○ 環境対策報告会準備	
	4		
10	1	○ 環境対策報告会	
	2	○ 文化祭のための「私たちにできる環境対策報告」のまとめ	
	3		
	4		
11	1	○ 文化祭での「私たちにできる環境対策報告」の発表	
	2	○ 環境学習まとめ	
	3		
	4		
12	1	○ （例）高齢化社会において住みよい環境は何か、福祉をテーマ にしたオリエンテーション	・昨年度の活動内容 ホームページより参 照
	2	○ 昨年度の活動紹介	
	3		
1	2	○ 学級での「福祉」についての話し合い	・記録用紙 デジタルカメラ
	3	○ 「福祉」について、外部から講師を招いて講話を聞く	
	4		
	5		
2	1	○ 市内の福祉施設の調査	・資料収集 ・記録用紙
	2	○ 調査活動のまとめ	
	3	○ 調査活動の発表と今後の話し合い	
	4		
3	2	○ 次年度の活動計画立案	・計画用紙
	3		

月に1回は2時間つづきの予定で計画を立てる はメディア関係， ・はその他必要なもの）

総合学習の実際（各講座ごとの実践）

実践事例1 「地球温暖化とCO2 について」講座の活動

地球温暖化の仕組みについて，インターネットを利用して調べたり，NACS（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会）の本を使って学習した。

学習を進めていく中で，CO2 は電化製品を使うことによって大量に出されていること

に気づき、2軒の家で待機電力を調査していただいた。

また、多くの人に地球温暖化について理解し、環境についての意識を高めてもらうために、NACSの清水かほるさんを招く会を開き運営した。会の進行や講師の紹介、お礼の挨拶や案内など、初めての経験で緊張や戸惑いもあったが、表現する場の一つになったと思われる。

この講座で生徒は次のようにまとめている。



今の地球の状態を知ることができました。CO2 について分かることが増えました。これから私たちがやっていけないといけなことは、数え切れないほどあると思います。

電気製品のムダ使いをしない、リサイクルをもっと考える、買い方を気をつけるなど、ほんのちょっとしたことでも、たくさんの人が行動するだけで少しでもよくなると思います。

実践事例2 「原発や公害について」講座の活動

生徒は、公害の種類を調べる中で、人が原因となっていることが多いことに気づいた。騒音・悪臭・大気の汚れ・水の汚れ・振動などたくさんの公害に悩まされているのだ。また、原発については、ロシアのチェルノブイリの事故が大きな問題となった。31万人もの死者を出し、66万人もの被害者が今もなお苦しんでいる。このような現状を調べるとともに、新しいエネルギーについてインターネットや図書資料で調査した。

その結果、自分たちにできることは、「電気器具は主電源を切る、近くへは車ではなく歩いていく、ゴミは分別してリサイクルに出す」など、生徒自身からこのような意見が出てきたことは学習の成果と言ってよいと考える。

この講座で生徒は次のようにまとめている

たくさんの水質汚濁の防ぎ方は、洗濯は風呂の残り湯を使う、米のとぎ汁は木や花にかけるとあります。私が大人になったとき、伊賀川で子どもが遊べるようになってほしいです。

ウランなどで核分裂させると、大量のエネルギーが生まれてとても便利だが、危険なので他のエネルギーを考えなければならないと思う。

実践事例3 「四つ葉のクローバーの秘密」講座の活動

環境の悪化を植物も訴えていることを、幸せを呼ぶと言われている「四つ葉のクローバー」ことシロツメクサを育てながら、調べてみた。

まず、インターネットからのシロツメクサについての質問を、生徒に問題提起して考えさせた。「四つ葉のクローバーは汚染されている土地に生えるというのは本当ですか。」この質問に、生徒は当然不思議に思った。そこで、生えているところを探しにいき、その土地の様子を観察し、シロツメクサの株ごと抜いて



きた。もともと四つ葉のものと、それから三つ葉のものとを用意して育ててみることにした。

インターネットの中に、「汚染」とか「成長点の損傷」によって突然変異を起こすとあり、このことを確かめるために、四つ葉の方は、きれいな土を入れた鉢に植え替えて栽培し、三つ葉の方は、踏んでみたり葉を傷つけてみたりして比べてみた。

結果は、時間が短いこともあってか、実際には四つ葉からは四つ葉が、三つ葉からは三つ葉が出てきやすく、なかなか実証することはできなかった。

しかし、生徒はこのような投げかけに関心を強め、次のようにまとめた。

四つ葉のクローバーは、環境の悪化を教えてくれる「指標植物」であり、自然を大切にしないと云っているんだと思う。

四つ葉のクローバーは、実はまるで人間に腕が3本あるような奇形の一種であることが分かった。

実践事例4 「岡崎市の取り組みの様子」講座の活動

私たちの住んでいる岡崎市の取り組みについて、項目に分かれてグループごとに調査した。身近な環境について調べてみると、多くの人たちが努力されていることが分かった。

例えば、伊賀川を美しくする会の方々が、土手の草刈や川掃除を行ってくれていること。

市役所の人が岡崎公園の木の手入れや掃除をしてくれていること。

商店街では、待ちを明るくしようと花いっぱい運動をしている。また、岡崎市の補助を受けて、屋上に木を植えたりしている。

国道1号線の騒音は沿道の住民の日常生活にし支障が出るほどすごいものだったが、昭和60年に騒音を防ぐために、国道を広げる工事をして、騒音は少しはおさまった。また、東岡崎駅では、車椅子専用の道を造ったり、掃除をしたりして気持ちよく使ってもらうための工夫もしている。

このように、住むという点からも環境を見つめさせることができた。

この講座で、生徒は次のようにまとめた。

駅がいろいろな工夫をしているなんて知りませんでした。車椅子専用通路があったり、障害者の人の黄色の点字のブロックがあったり、車椅子専用のトイレがありました。でも、大きな駅と小さな駅とでは取り組みの違いにびっくりしました。

普段知らない商店街の人たちが公園のゴミを拾ってくれたり、緑を増やそうと屋上緑化・花いっぱい運動を行ったりと環境のことをこんなに考えてくれる人がいるとは全く知りませんでした。僕たちも環境に優しくしていきたいです。



まとめ 「資源の大切さを訴える作品づくり」

このJMTで学習したことを家族や地域の人たちに知ってもらうためには、ポスターや廃物を使った作品を見てもらうことも、とても大切なことではないかと考えて取り組ませてみた。

右の作品は、ゴミ箱にさらにゴミを入れようとする人を描いたもので、今の地球もこのゴミ箱と同じ状態になっている。より多くの人々がごみ減量に心がけてほしいという願いがある。

次の作品は、ちょっとしたことで節電していかなければならないと思い、描いたものである。一人一人がコンセントを抜くだけで随分と節約になることを教えている。

廃物を利用した作品も、よく考えた作品ばかりで、文化祭の時は注目されていた。この講座の生徒は、次のようにまとめた。

僕は、ポスターで、ゴミのことを選ぶとき、地球がゴミだらけで泣いているところにしようと思いました。自分の作品を見て、ゴミは川や海に捨ててはいけなかったと思いました。
みんなの作品を見ていると、その作った人の思いが伝わってくるような気がしました。

これら実践の後、それぞれの講座で追究してきた結果を文化祭で発表を行い、まとめとした。また、実践の結果をもとに、EM菌を利用し、生ゴミを堆肥として花を育て、毎年行われる本校の生徒会行事「長寿者訪問」に活用する計画も発案され、実施することとなった。



(2) 平成14年度 中学2年生の取り組み

実践のねらいと手だて

前年の1年生の実践を受けて、「福祉」をテーマにした本実践では、まず、生徒自身に共通の体験をさせ、その体験をもとに生徒が感じたこと、考えたこと、興味を持ったことなど個々の「想い」を捉えることを考えた。次に、この「想い」を課題へ発展させ、解決の方法や追究の仕方を生徒が自ら考え、具体的に活動するための計画を立て、準備をし、具体的な活動にしていく。これら一連の流れを生徒自身の手で行わせることを考えた。

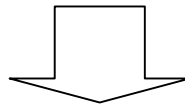
また、本校がこれまで研究し、取り組んできたインターネットを含めたマルチメディアをさまざまな活動の場面で活用していくことで、単にイベント的な活動にとどめることなく、自ら情報を収集したり、発信したり、他とコミュニケーションをとることができる。

以上のことを活動に取り入れることにより、さまざまな人の生き方にふれ、共に生きることの意味を考え、よりよく生きるための力へとつなげていくことができると考えた。

目指す生徒の姿

- ・ 福祉にかかわる自らの課題に向けて進んで問題解決に取り組む生徒
- ・ 老人や障害者、ボランティアや施設で働く人などとかかわる中で、思いやりやいたわりなど豊かな心を育て、自他の生命の大切さ、人権を尊重しあうことの大切さを感じ取る生徒
- ・ 「よりよく生きる」ために自分なり考え方をもち身近な問題に主体的にかかわり、解決しようとする生徒。
- ・ 適切な情報を取り入れたり、自ら発信したり他と情報交換を意欲的に行う生徒。

手だて



- ・ 生徒の想いや課題意識を探り、活動の計画を立て、体験や調査場所、活動の計画立案、修正を生徒自身の手で行わせたことで、主体的な活動の意識を育てる。
- ・ 身近な共通体験をもとに実践を発展させ、直接体験を通して福祉にかかわる問題を自分のものとして捉えさせていくことで生徒の活動意欲を高めていく。
- ・ インターネットやマルチメディアを活用し、幅広い調査活動や他とのコミュニケーションを広げる。

計 画

第2学年 テーマ「誰もが豊かに暮らせる町を考えよう」

月	週	活 動 内 容	メディアの利用	備 考
4	3	○福祉をテーマとしたオリエンテーション（昨年度の「福祉」学習について紹介する。）	VTR 	
	4			
5	2	○講師 夏目美知子さん（特別養護老人ホーム看護婦長）の講話		・学習カード①
	3			・学習カード②
	4	○福祉に関するイメージマップの作成		
6	1	○福祉体験学習（高齢者・障害者疑似体験） ＊岡崎市社会福祉協議会・ボランティアセンター派遣講師	デジタルカメラ カメラ インターネットウェブ検索 	・学習カード③
	2	○イメージマップの補足（2次）自己課題の明確化		・学習カード②
	3	○個人課題の集約と課題別班編成		・インターネット
	4	○グループ課題の設定 ○第1回実践・調査活動の準備		・電話 ・FAX ・E-MAIL
7	1	○第1回実践・調査活動	デジタルカメラ カメラ	・学習カード④
	2	○イメージマップの補足(3次) ○活動のまとめ・ポスターの作成		・学習カード② ・B紙
8	1	○個人追究学習	インターネットウェブ検索	
	2			
	3			
	4			
9	1	○第2回実践・調査活動の準備	インターネットウェブ検索	・インターネット
	2	○調査項目の選定		・電話
	3	○調査場所、調査施設の選定		・FAX
	4			・E-MAIL
10	1	○第2回実践・調査活動（例・名古屋市福祉調査）	デジタルカメラ カメラ ホームページ作成ソフト プレゼンテーションソフト	・学習カード⑤
	2	○イメージマップの作成		・学習カード②
	3	○活動のまとめをする		・B紙
	4			
11	1	○文化祭での代表者発表	プレゼンテーションソフト	・昨年度の活動記録 （B紙、文集、しおり、 修学旅行資料）
	2	○「国際理解」をテーマにしたオリエンテーション		
	3	○国際理解テーマ希望調査		
	4	・国際協力 ・日本文化 ・外国文化 ・経済貿易 ・国際環境 ・国際平和		
12	1	○調査項目の選定	インターネットウェブ検索	・学習カード⑥
	2	○調査場所、調査施設の選定		
	3			
1	1	○調査活動	インターネットウェブ検索	
	2	・所在地 ・交通機関 ・場所や施設の内容		
	3	・連絡方法		
2	1	○調査活動のまとめ		・B紙、ホームページ作成ソフト、プレゼンテーション
	2			
	3			
3	1	○調査活動の発表（体育館）		
	2			

総合学習の実際

実践事例1「福祉共通体験」- 学習の方向づけの場 -

福祉をテーマとした体験活動を行うにあたり、まず、生徒の意識を福祉に向け、以後の活動を方向づけるため、講師による講演と生徒全員による高齢者・障害者擬似体験を行った。

* 講師による「福祉」の現状報告

講師として特別養護老人ホーム『はぐりの里』の主任看護師、夏目美智子さんを招いた。

夏目さんから施設の概要、ホームで過ごす老人の様子、看護の実情などをお話していただいた。

(資料 夏目さんによる講演)



生徒にとって老人福祉の現場の方から直接現状を聞き取ることができたことで、身近な問題として感じ、課題意識が高まっていったことが感想に表れていた。

(資料 M子 の記録)

夏目さんのお話を聞いて

☆ 知ったこと・わかったこと (具体的に)

・ 介護関係のよく働く人がいること。

・ いろいろな介護施設があること。

☆ 老人福祉 (介護など) で、自分がしなければならぬ (したい) こと (現在、あるいは将来的に)

・ ④ 募金をする。

・ できる限りお金を助けてあげること。

・ 老人ホームなどにいってお手伝いをする。

☆ 家庭や社会、国、福祉施設などが抱える課題点 (よくしていきたいところ)

・ 病院の体制。

・ 家族の役割。

☆ 感想

トイレの場所がわからなくなってしまうことなどから、痴呆は本当に大変だなと思いました。それでも人の役に立ちたいと考えるのはすごいと思いました。 (M子)

また、家族の問題もよくあることだと思いました。そして、介護の問題もよくあることだと思いました。そして、介護の問題もよくあることだと思いました。 (M子)

自分でしたいこと・興味を持ったこと

- ・ 募金をすること
 - ・ 困っている人がいたら助けること
 - ・ 老人ホームにいったお手伝いをする
- こと (M子)

感想

トイレの場所がわからなくなってしまうことなどから、痴呆は本当に大変だなと思いました。それでも人の役に立ちたいと考えるのはすごいと思いました。 (M子)

* 「高齢者・障害者擬似体験」

講師から高齢者福祉の現状を聞き取った生徒であるが、頭の中である程度イメージはできていても、まだ自ら追究するという段階に至っていないものも多く見られた。そこで、実際手や足がうまく動かない高齢者や目の不自由な人が、実社会の中でどんな不自由さを感じているのか擬似体験をさせることにした。

体験にあたっては、岡崎市社会福祉協議会のボランティアの方々をお願いして、車椅子体験や盲人ガイド・点字や要約筆記などの内容で講座を開いていただいた。生徒はローテーションをしながら高齢者・障害者の擬似体験を行った。



(資料 高齢者・障害者擬似体験の様子)

左上 車椅子体験 右上 点字講座
左下 高齢者体験 右下 盲人ガイド



擬似体験を終えた生徒たちは、自分たちがイメージしていた様子と実際に体験した感覚の差に大きな驚きをもち、「高齢者体験は思っていたより手や足が動かしくなくて大変な事がわかった。」「もっと社会にある施設などに、配慮がなければいけないことに気づいた。」など福祉にかかわる問題が身近なものとしてとらえられ、イメージも大きくふくらみを見せた。

実践事例2「福祉体験活動」 - 追究学習の場実践例 -

共通の体験を終えた生徒たちは、それぞれにイメージを膨らませ、自身のマップをもとに「もっと○○について知りたい。」「今度はこんな体験がしてみたい。」「実際の施設の様子やそこで暮らす人、働く人の様子を見てみたい。」など追究の意欲を見せるようになってきた。そこで、生徒のイメージマップをもとに体験学習を設定した。体験学習のグループ分けについては生徒の意識に沿うように配慮した。その結果、183名が課題別に31のグループに分かれ、22箇所では体験活動を行うことになった。

体験活動については、まず、自分たちの課題を明確にすること、グループごとに話し合っ

*ショッピングセンターのバリアフリー調査グループの活動

障害者の方が利用しやすい施設の工夫について調べるために、ショッピングセンターへ出かけた。副店長の方に、店の中を案内していただき、説明を聞くことができた。生徒達は、駐車場や、階段の手すりなど、普段気づかないところにも体の不自由な方への心配りがあることを知った。また、ハートビル法に基づいてこのショッピングセンターが建てられていることを知った。さらに、建物だけでなく、働く人たちも障害者や高齢者に気を配っていることを知った。

Aショッピングセンターには、たくさんバリアフリーがありました。普段は気づかないけど、障害者の目で見ると、いろいろ便利だと思う施設がありました。まだ、時々トラブルが起こるそうです。でも、建物以上に、Aショッピングセンターの人全員が「みんなが使いやすいように」と努力しているところがすごいと思いました。

(資料 体験活動カード記録より)

*車椅子体験グループの活動

車椅子体験を町の中で行い、障害者が町へ出たときの苦労や町の問題点を調べていった。生徒達は、車椅子で町へ出かけることの大変さを実感することができた。



まとめ

体験学習のまとめとして各グループごとにポスターとしてB紙にまとめを行った。ここであえてポスターとしたのは、単に活動体験を文章にまとめるのではなく、活動から学んだ事、強く印象づけられたことなどをインパクトのある絵や図、表などによって見る側にわかりやすい表現を考えさせたいという意図からである。

グループごとに作成されたポスターは、文化祭の学年学習のコーナー展示物として掲示された。

また、同時に各グループのまとめをグループのリーダー - を中心にして、Webページにもまとめ、城北中のホームページに公開した。Web上に公開することで学年や学校内に留まらず、自分たちの活動が世界に向けて発信されることになる。今後の学習の広がりも期待して作成することができた。このホームページを使い、寸劇をまじえて文化祭での学年発表も行った。



3. 平成15年度 総合学習としての修学旅行の取り組み

1、2年生での学習を受けて、3年生では「よりよい生き方を学ぶ」をテーマとして学習に取り組むこととした。義務教育3学年を終え、これからの進路を自ら選択し、自らの力で進む力を育むための活動の場と目的を学期ごとにさらに具体的に設定した。

1学期 「国際人としての見識を深める」・・修学旅行を体験実践の場として過去や現在の日本の文化や風俗に触れたり、国際社会の中で活躍している企業・人から見学や聞き取りをしたりして、国際人として生きていくための知識やマナー、考え方など見識を広げる。

2学期 「身近な人の生き方に学ぶ」・・進路選択に参考となる人（卒業生や高校の先生・職業人など）を招き、体験談を聴いたりアドバイスを得たりする。また、自らの進路についてインターネットや図書資料などをもとに調べ、将来について考える。

2～3学期 「自らの人生を拓く進路の選択をする」・・将来の設計をもとに、さらに詳しく調べたり、実際に職場訪問する活動をし、よりよい進路選択の手がかりを探る。

(1) 計画 *11月まで

第3学年 テーマ「よりよい生き方を学ぶ」

月	月週	活 動 内 容	備 考
4	3	- 総合学習オリエンテーション - 修学旅行行動日程ガイダンス - 体験学習班希望調査・班編成	昨年度の活動記録(B紙・文集・しおり) 修学旅行資料 個人ファイルの準備
	4		
5	2	- 体験・見学場所の選定・決定 - 見学地の事前調査・連絡 - 資料収集・活動計画立案 - 進学説明会1	修学旅行しおり作成 図書資料・インターネットの活用 見学・体験依頼
	3		
	4		
6	1	平成15年度修学旅行「国際人としての見識を広げる」 - 見学・実体験 修学旅行(共通体験学習1) - 見学・実体験 修学旅行(班別体験学習2) - 見学・実体験 修学旅行(班別体験学習2) - 見学・体験のまとめ1(感想・見学所へのお礼の手紙・Eメール文の発信など)	1日目、2日目の 活動予定細案 資料収集
	2		
	3		
	4		
7	1	- 見学・体験のまとめ2 - 個人ファイルへのまとめ見学・体験記録作成 - 班別活動B紙まとめ(概略)	見学・体験記録用紙
	2		
9	2	- 見学・体験のまとめ3 - 班別活動B紙まとめ(完成)	B紙
	3		
	4		
10	1	- グループ別体験報告会(学級)発表準備 - 3時間 - 体験活動報告会(学年) - 3時間 - 進学説明会2(別紙起案)	プレゼンテーションの方法 文化祭展示計画
	2		
	3		
	4		
11	1	- 文化祭での代表発表 - 特別講座「身近な人の生き方に学ぶ」1 『私の将来設計』	プレゼンテーション 特別講師
	2		
	3		
	4		

(2) 修学旅行の日程

3年生の総合学習1学期のテーマ「国際人としての見識を広める」に迫るためには、修学旅行の中に「日本の伝統文化や自然にふれる」体験と、「今の日本の文化や産業の現状・海外とのつながりを知る」体験の両者が重要であると考えた。そこで、前者の共通体験では、日光東照宮を中心とした見学をメインに、後者を現在の政治・経済・文化の中心であり、国際都市東京での班別活動を組み込んだ日程を設定した。

日光への見学を1日目～2日目、東京での班別活動は2日目の午後に第1回、3日目午前を第2回として考えた。

1日目・6月5日(木)

中岡崎集 合	岡崎公園 駅発		豊橋駅 発		東京着		国会議事 堂着
7:30	7:58		8:47	こだま454号	11:06		12:00

国会発		日光東照宮 共通体験		ホテル 日光プリンス着	夕食(コー ス) 就寝
13:00		15:40		18:20	

2日目・6月6日(金)

起床	ホテル発	華厳滝 着		浅草着	班別学習1	船の科学館 夕食	サンセット クルージ ング	ホテル 海洋 着
6:30	8:15	8:30		11:30	12:00	17:45	19:00	20:30

3日目・6月7日(土)

起床	ホテル 海洋 発	班別学習2	東京駅 集合	東京駅 発		豊橋駅 着		岡崎公園 駅着	解散
6:30	8:00		13:30	14:33	こだま467 号	16:56		17:53	18:45

(3) 修学旅行体験学習の実際

実践事例1 「日光東照宮の見学」

修学旅行1日目の見学地として国会議事堂の次に日光東照宮を設定した。これは、本校学区の龍城神社（岡崎城内）と日光東照宮の間に縁があることもさることながら、日光に存在する遺跡や寺社、世界遺産東照宮を含めた文化的・歴史的遺産や美しい自然環境が、日本文化を象徴するものであること。また、アンケート調査によれば、岡崎市に住むものにとって、修学旅行という機会をとらえないと今後なかなか訪問する機会がないということが主な理由である。本校は、開校以来、日光を見学地に設定しているが、これまでに時間的なロスが大きいことや、市内の他校の中に東京ディズニーやその他の見学地を設定していることから見学地としての価値の検討を何度か積み重ねてきている。しかし、現状では、修学旅行の本来のねらいや、これまでの卒業生の事後感想から判断すると、見学地として日光がふさわしいとの結論に至っている。

今回、1日目には、東京到着後、日光東照宮を見学した。移動に約3時間かかったが、生徒たちの反応を見ると、「こんなに深い森の中であって、陽明門の美しさは感動した。」

「びっくりするような太い杉木立が美しく、空気もひんやりとして、静けさを感じた。」「昔の日本人の建築・彫刻の技術の高さや美的センスのよさに驚いた。」など教科書や資料でしか目にしたことのない世界遺産を目の当たりにして、感動も大きかったようである。

宿泊は、中禅寺湖畔のホテル。夕食が、テーブルマナー学習を入れたフランスのコース料理。生徒たちも慣れぬナイフ使いに悪戦苦闘していたがホテル側に一般客と同様なサービスをしていただき「少し、大人になったような気がした。」と満足したようであった。修学旅行1日目で、和洋の文化に触れ、そのよさを感じ取ることができたことであろう。

翌日、起床後、クラスごとに湖畔を散策し、朝食後、華厳の滝へ移動した。中禅寺湖の美しさや華厳の滝の雄大さに感動した生徒も多かった。



実践事例2 「東京都内班別活動」

東京都内での班別活動を2日目、3日目の2回設定した。

修学旅行2日目、日光から東京へ移動し、午後から第1回目の班別活動1を実施した。解散地は浅草とし、集合地をお台場船の科学館とした。第2回目の班別活動2は、3日宿泊所新宿ホテル海洋とし、集合地を東京駅丸の内南口とした。

この2回の班別活動を生徒自ら計画し、実行していくために以下の手順で準備を進めた。

* 班別学習テーマについて

修学旅行の班別学習テーマを設定するにあたってまず、観点を明確にすることを考えた。そこで班別学習の観点を以下の6ポイント設定し、その後、観点に沿った各班のテーマをつくった。

国際協力・・・NGO団体の事務所などを訪ねて、実際に活動している人の話を聞いたり、自分たちにできる活動を考える

外国文化・・・外国の衣食住にかかわる施設を訪ねる。できる限り体験ができる施設を選ぶ

日本文化・・・日本の伝統文化に触れることができる施設を訪ねる

経済貿易・・・日本と外国がどのように結びついているかを知ることのできる施設を選び、具体的な業務の話聞く

国際環境・・・それぞれの国が抱えている環境問題について調べ、それに関連する話が聞ける施設を選ぶ

国際平和・・・民族紛争や人種差別など、国際平和にかかわる問題を調べたり、具体的に話を聞いたりする。

以上の観点をもとに班別学習のテーマを決め、次に学習テーマに沿った見学・体験地を考えさせた。実際には、インターネットや雑誌・関係資料を使ってアポイントをとらせ、事前の下調べ学習を行った。右は15年度の班別見学・体験地一覧である。

本年15年度は、5クラス186名がそれぞれクラスごとに3～7名で班を作り、41班、見学・体験地は32箇所となった。

組	班	見学地	住所	組	班	見学地	住所
1	1	花火博物館		3	5	国立科学技術館	千代田区北の丸公園2-1
		警察博物館	中央区京橋3-5-1	3	6	東京証券取引所	中央区日本橋兜町2-1
1	2	東京証券取引所	中央区日本橋兜町2-1	3	7	ソニーショールーム	中央区銀座5-3-2
1	3	本所防災館	墨田区横川4-6-6	4	1	サンシャイン60	豊島区池袋
1	4	大蔵省造幣局	豊島区東池袋4-42-1	4	2	警察博物館	中央区京橋3-5-1
1	5	東京証券取引所	中央区日本橋兜町2-1	4	3	地震の科学館	北区西ヶ原2-1-6
1	6	江戸伝統工芸展				東京ドーム	文京区後楽1-3
1	7	三洋硝子	江戸川区小松川4-94	4	4	ソニービル	中央区銀座5-3-1
1	8	電力館	渋谷区神南1-12-10	4	5	Hondaウェルカムプラザ青山	港区南青山2-1-1
1	9	日本銀行	中央区日本橋本石町2-1-1	4	6	池袋防災館	豊島区西池袋2-37-8
1	10	池袋防災館	豊島区西池袋2-37-8	4	7	NHK	渋谷区神南2-2-1
2	1	江戸東京博物館	墨田区横綱1-4-1	4	8	三洋硝子	江戸川区小松川4-94
2	2	財務省	千代田区霞ヶ関3-1-1	5	1	次大夫堀公園民家園	世田谷区喜多見5-27-14
2	3	NHK放送センター	渋谷区神南2-2-1	5	2	貨幣博物館	中央区日本橋本石町1-3-1
2	4	フジテレビ	港区台場2-4-8	5	3	防衛庁	新宿区市谷本村町5-1
2	5	ソニービル	中央区銀座5-3-2	5	4	本所防災館	墨田区横川4-6-6
2	6	江戸東京博物館	墨田区横綱1-4-1	5	5	羽田空港	大田区羽田空港3-3-2
2	7	三洋硝子	江戸川区小松川4-94	5	6	東京税関	江東区青海2-5-6
2	8	マクドナルド本部	新宿区西新宿6-5-1	5	7	オーストラリア大使館	港区三田2-1-14
2	9	江戸東京博物館	墨田区横綱1-4-1				
3	1	東京都庁	新宿区西新宿2-8-1				
3	2	東京タワー	港区芝公園4-2-8				
3	3	NHK	渋谷区神南2-2-1				
3	4	野球博物館	文京区後楽1-3-61				

班別学習見学体験地一覧

* 班別行動計画表の作成

班別テーマが決まり、見学・体験地が決定した後、生徒たちにはそれぞれの班が、どのような経路・日程で活動できるかを調べさせた。調べたもとになったのは、インターネット資料、時刻表及びパソコンソフト「駅ずばあと」などである。

アポイントをとった訪問先と解散地点、経由地を考え、タイムテーブルをつくっていくことで訪問時間に無理がないか、或いは余裕があり過ぎないか、移動手段とおよその料金を知ることができる。

学級の時間や給食後の放課などの時間を使い、パソコン室のパソコンを活用して調べあげることができた。

実践例1 日本の伝統文化「吹きガラス」の体験

班別学習のテーマを決める段階で、観点を「日本文化」に置いた班の中で、「江戸吹きガラス」を選んだものがあった。5クラスの中で3つの班であったが、「日本の伝統文化にふれたい、体験したい。」「伝統文化は、どのような人たちが支えているのだろう。」「一見時代遅れに見られる吹きガラスにどんな技術が隠されているのだろう。」「吹きガラスを職業に選んだのはどんな思いからだろう。」「職業としての吹きガラスの現状や将来は、どんなものなのだろう。」という思いから見学、体験地として選んだ。

実際に現地を訪れ、クーラーもなく、うだるような暑さの中で働く職人さんたちの様子を目の当たりにしたり、取材をしたりしていく中で、生徒たちは、長い歴史の中で培われた伝統の技術のすばらしさや職人の技の高さ、またその技術を後世に伝えたいという思いを肌で感じ取ることができた。さらに、職人さんに手ほどきを受けながら生徒各自が一輪挿しを完成させることができ、感激したようである。

班別行動計画表 例(2組)

2組 6月6日(金)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	班
12:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:00
12:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:10
12:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:20
12:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:30
12:40	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:40
12:50	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	12:50
13:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:00
13:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:10
13:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:20
13:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:30
13:40	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:40
13:50	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	13:50
14:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:00
14:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:10
14:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:20
14:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:30
14:40	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:40
14:50	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	14:50
15:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:00
15:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:10
15:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:20
15:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:30
15:40	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:40
15:50	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	15:50
16:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:00
16:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:10
16:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:20
16:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:30
16:40	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:40
16:50	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	16:50
17:00	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	17:00
17:10	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	17:10
17:20	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	17:20
17:30	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	17:30



伝統文化というのは最初、古いけど美しいというイメージでした。ところが実際訪問してみると、工場は狭くて、暑くて、働いている人はみんな汗を流して大変そうでした。しかし、熱心な説明を聞いたり、取材をしてみると、ここで働いている職人さんたちが誇りを持って働いていることに気づかされました。また、一気にガラスを吹き上げる技術のすごさにビックリしました。

伝統の技術を守っていくのは大変だけど、価値のあることだなあと思いました。親切に手伝ってくれて、私も一輪挿しを完成させることができました。後で送られてくるのが楽しみです。

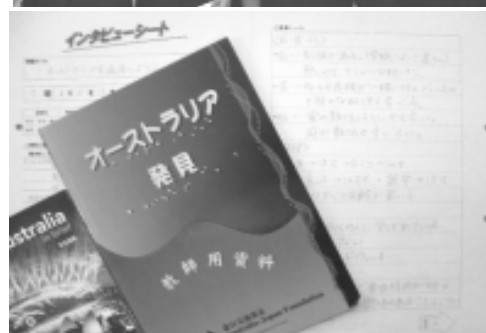
「吹きガラス体験」生徒の記録より



実践例2 国際理解「オーストラリア大使館」の見学

班別学習の観点を「国際理解」に置いた班は、オーストラリア大使館に見学することが決まった。この班は、「海外の国のことをもっと知りたい。」「日本の文化や風俗との違いを調べたい。」という想いから取材地を探していたが、さまざまな国の大使館にアポイントをとろうとするもののなかなか見学・取材を受け入れてもらえず、苦労をしていた。アポイントをとることは、簡単なことと考えていた生徒にとっては「なぜ、受け入れてもらえないのだろう。」「テロの影響があるのかな。」「日本との関係がうまくいっていないのかな。」など戸惑いを隠せなかった。ようやくオーストラリア大使館に見学・取材地が決定した後は、「ただ見学するという気持ちじゃだめなんだ。」「取材の内容をもっとはっきりさせないと相手に失礼になる。」「大使館って何をしているところなのかまず、事前に調べておく必要がある。」「取材のマナーも大切に考えないと。」など、大使館への取材ということが、これまで経験してきた工場などの見学とは違いがあることに気づいていった。そして、取材のための事前学習を熱心に行った。

実際に訪問した様子では、大使館の方も親切丁寧に対応していただき、有意義な時間となったが、生徒たちは当初ずいぶん緊張したようである。次は取材を終えた生徒の感想である。



オーストラリア大使館に訪問して分かったこと

学校には同じように制服があるが暑いのでTシャツや短パンのところもある。また、多くの民族が一緒に住んでいるのでさまざまな食べ物、料理がある。日本と比べると国土が広いので、家の敷地はとにかく広い。法律も違い、お酒は18歳、タバコは16歳で許される。自動車免許は16歳、選挙権は18歳と日本より低い年齢で認められることが多い。学校生活は、部活動がない、自由時間が多い、自分の興味のあることを勉強するなど、本人の意思に任せられることが多いなどさまざまな違いがあることが分かった。

文化や生活、考え方が違うオーストラリアの人たちと仲良くしていくためには、まず、お互いの国を知ることが大切だと思った。そのためには、交流を増やしたり、お互いの国のことをもっと紹介することが重要。大使館の人たちは、自分の国のことを紹介することが仕事だと言っていた。オーストラリアは遠いけど、日本語を学ぶ人もたくさんいて日本とのつながりも深いことが分かった。

生徒の記録より

(4) その他の企画として

・家族からの手紙・家族への手紙

1日目、東京へ向かう新幹線の中で昼食をとる。その際、お弁当の中に家族から手紙を入れてもらった。もちろん生徒には内緒である。これは、事前の保護者会で、こちらが意図的にお願いしたことであった。ご父兄の協力をいただき、実施したわけであるが全員の保護者の協力を得られるか不安であった。当日、昼食が始まると生徒たちから驚きの声が上がった。大きな声を出しながらも生徒たちは一様に感動していたようである。年齢とともに面と向かって話しすることが少なくなる年齢だけに、この企画は、生徒にとって心に残るものとなったのであろう。中には感激して涙を流す生徒も多数見られた。全員の保護者から協力をいただくことができた。



また、1日目、日光での夕食後、絵葉書を用意し、家族に向けて葉書を書かせた。普段はなかなか葉書を書く機会もなく、まして家族に宛てるということで「何を書いていいかわからない。」「ちょっと照れくさいなあ。」という生徒も見られたが、昼食時に読んだ手紙のことを思い出してか、それぞれが書面に向かっていった。書き上げた葉書は翌朝集約し、ホテルの方をお願いして投函していただいた。葉書は、生徒より一足先に家庭へ届くことになる。

・お台場サンセットクルージング

2日目の班別活動1後の集合場所をお台場の船の科学館とした。ここで、生徒たちは夕食をとり、東京湾のクルージングに出かけた。およそ1時間半の間ではあるが、レインボーブリッジや東京タワーの夜景を見て、班別活動とは別の感動を味わったようである。

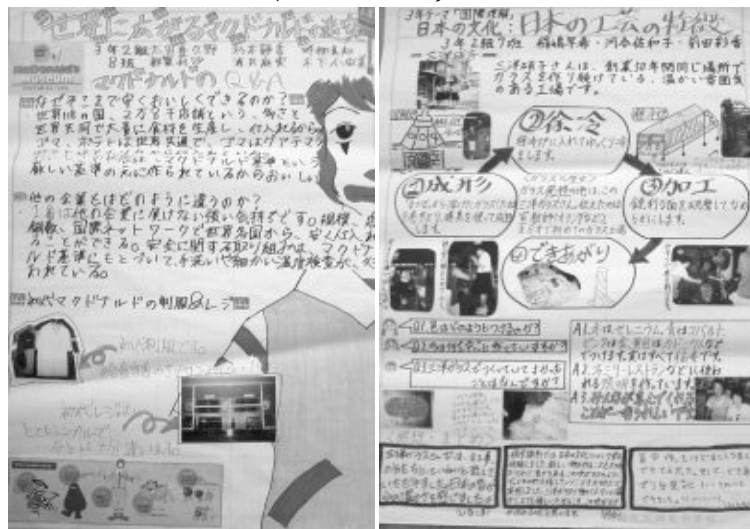
「東京の夜景は、いろんな光があって本当にきれいだった。これだけの人がいるんだと思うと感動した。」と感想を述べた生徒もあった。



(5) まとめ

総合的な学習のまとめとして、まず、各個人での学習ファイルの整理を行わせた。ファイルには修学旅行までの「総合的な学習の時間」で調べたことや個人の追究テーマ、班別学習の計画、実際に取材した事柄と自身で気づいたこと、感じ取ったことが集約された。続いて学習班ごとに調べたことを持ち寄って掲示用B紙

(まとめのB紙)



にまとめを行った。このB紙を使って学年発表会を行う。現在、発表原稿や発表資料の準備を行っている。発表用のB紙を見ると、班別活動によってさまざまに調べたことや集めた資料、自ら体験したり、直接取材をして集めた事柄をていねいにまとめることができた。今後は、これら修学旅行のまとめをWeb ページにまとめ、文化祭でもステージ発表を行う予定である。

4. おわりに

「総合的な学習の時間」では、生徒自身が主体的に活動に取り組み、問題に立ち向かう中で、人間的な豊かさを身に付けさせることをねらい、学習を進めてきた。

1, 2 年生の活動では「環境」や「福祉」といったテーマを設定した学習を通して、身近な自然や社会環境に目を向けたり、老人や障害者ボランティアや施設で働く人などと直接かかわったりする中で、思いやりやいたわりなど豊かな人間性が育ち、自他の生命の大切さ、人権を尊重しあうことの大切さを理解し、自ら行動できた。また、インターネットを含めたマルチメディアを活用することにより、適切な情報を取り入れ、自ら発信し、他と情報交換を意欲的に行うことができた。

さらに3 年生1 学期では「よりよく生きる」ための手だての1 つとして「国際人としての見識を深める」をテーマとして、修学旅行を「総合的な学習の時間」に位置づけてきた。

その成果をまとめてみると以下ようになる。

東京での班別活動を通して

生徒が自ら課題をもち、意欲的に追究することができるようになった。

1, 2 年生の経験を生かして課題を設定することから、インターネットや図書資料などを活用して調べ、活動の計画を立て、実際に訪問地へアポイントをとり、取材活動のマナーを知ることなどができた。

生徒どうしがお互いに協力し合い、問題解決が図れるようになった。

班別活動をする中で起きるさまざまな問題や突然のトラブルに対処し、乗り切っていく能力が身についてきた。

さまざまな産業・文化・人などに接することにより社会認識が深まった。

国際都市東京ならではの事物に接することで、見聞を広め、現代社会の動きや問題などに関心を持つことができるようになった。

日光の見学・東京の班別活動を通して

これからの時代を生きる「国際人としての見識」を深めた

「日光」という、日本の伝統文化や美しい自然に意図的に触れさせたことは、単に観光地「日光」と言う意味合いでなく、過去から今の日本を見つめ直したり、急速に国際化が進むであろう今後の日本の産業や文化の将来像を考えたりするきっかけになった。その意味から「日光」「東京」両方の訪問が効果的であったといえる。

しかし、班別活動を取り入れたことは、逆に課題も多い。現状での課題をあげるならば、

- ・ 班別活動時における生徒の安全性の確保
ことに東京都内では、渋谷・原宿など繁華街で、修学旅行生をねらった悪質業者などが現れたり、危険な誘惑が多いこと。そのため、生徒に対する事前指導や緊急連絡の方法、現場担当者の手配など、班の数や訪問地が多くなればその分注意が必要になる。
- ・ 弾力的な日程・余裕をもった計画
列車の時間や、国会の見学などで時間的な制約があり、さらに、班別活動では、どれだけ生徒の活動時間を確保できるか。2泊3日の日程の中で、さまざまな計画が組みにくいこと。
- ・ 活動経費の高騰化への対応
いくら生徒からのリクエストや教師側の思いがあっても、宿泊・移動・見学などにかかる費用を無視できない。特に班別活動を行えば、個々にかかる費用はかさむ。いかに効率よく活動できるかがポイントとなる。

今後、国際化・情報化が進み、社会の仕組みや産業も急速に変貌を遂げていくであろう。その中で、3年生は、自らの進路選択を迫られてくる。21世紀に生きる生徒一人一人が「国際人としての見識」をもって、自らの人生を拓いていってくれることを願う。